

## 6弱以上東海・四国上昇

### 30年以内確率 高知74% 静岡69%

政府の地震調査委員会(平田直委員長)は27日、今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布を示した最新の「全国地震動予測地図」を発表した。

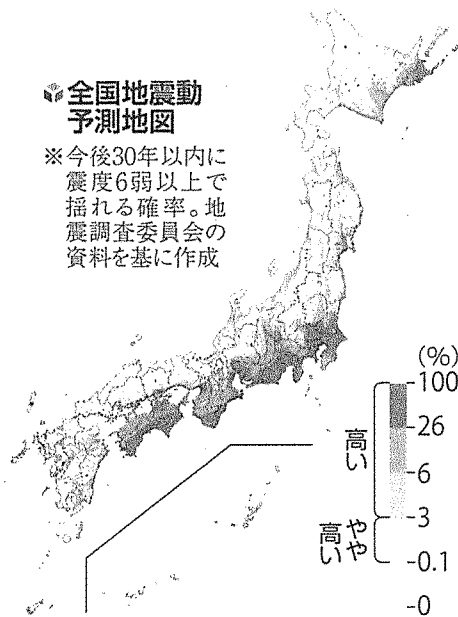
級の南海トラフ巨大地震などの発生を考慮した結果、前回の2016年版と比べ、東海地方から四国にかけて確率が1.5倍以上上昇した。首都直下地震が懸念される千葉県など関東南部も前回と同様に高確率となった。

調査によると、東海・四国の確率が上昇したのは、南海トラフ巨大地震が発生しないまま1年経過したため。震源域周辺の高知市(74%)、徳島市(72%)、静岡市(69%)で、

軒並み前回から1.5倍増となった。都道府県庁所在地で確率が最も高かったのは、前回と同じ千葉市の85%で、81%の水戸市と横浜市がこれ

#### 全国地震動予測地図

※今後30年以内で震度6弱以上の揺れが予測される確率。地震調査委員会作成



に続いた。人口が集中する東京都の都庁付近(47%)や大阪市(56%)も高確率だった。昨年4月にM7.3の地震があった熊本市は、前回と同じ7.6%だった。

今回は中国地方の活断層を評価し直したため、松江市や山口市で確率が上昇した。山口県山陽小野田市では、全国で最も確率が上がり、前回よりの3.6倍増の17.1%となった。

た地図は、防災科学技術研究所がウェブサイトで(<http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>)で公開している。

△関連記事社会面▽

都道府県庁所在地	2017年	16年との差
札幌	0.92	0
仙台	5.2	0.2
青森	4.3	0.1
盛岡	5.8	0
秋田	5.8	0.6
山形	3.6	0
福島	6.7	0
宮城	8.1	0
茨城	13.7	0
栃木	55	0.1
群馬	85	0
新潟	47	0
富山	81	0
石川	13	0
福井	5.2	0
山梨	6.5	0
長野	13.49	0.1
岐阜	5.7	0.2
愛知	27.69	0.1
三重	46	1.1
滋賀	63	1.1
京都	11	0
大阪	56	0
奈良	45	0
和歌山	61	0
徳島	5.6	0.4
高松	3.7	1.6
松山	42	1.1
高知	23	1.4
山口	5.9	1.4
広島	72	1.1
岡山	62	1.1
広島	44	0
山口	74	0
香川	8.2	0.1
愛媛	8.2	0
高松	2.6	0
徳島	7.6	0
高松	56	0
高松	44	1
高松	18	0
高松	20	0

※主な都市の中心部で今後30年以内に震度6弱以上で揺れる確率(%)

※東京は東京都庁周辺。他は市役所周辺

全国地震動予測地図 1~2年ごとに改訂され、最新の2017年版は今年1月1日時点の情報を基に作成された。活断層の分布や、南海トラフなど活断層以外の場所で見舞われる地震などのデータを基に、地震調査委がまとめている。確率が3%の場所は約1000年に1度、6%は約500年に1度、26%は約100年に1度の頻度で、耐震性の低い建物が壊れる目安となる震度6弱以上の揺れに見舞われると想定されている。